

が、このような形態がSPring-8における課題採択の非常に大きな特徴になっている。この点に関して、施設側と利用者側の共通理解が得られることは非常に重要だと思う。各ビームラインについても利用形態が異なり、現在の方式が向くビームラインもあれば、他の方式の方がベターと考えられるビームラインもあろう。SPring-8のような巨大な施設では、課題採択に関しても今後色々なアイデアが求められてくるのだろう。

要請により、主査という立場上、散乱・回折分科

会の課題審査について、一言述べた。多少なりとも、課題申請されるユーザーの参考になれば、大変幸いです。

坂田 誠 SAKATA Makoto

名古屋大学大学院 工学研究科応用物理学専攻

〒464-8603 名古屋市千種区不老町

TEL : 052-789-4453 FAX : 052-789-3724

e-mail : a40366a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp

- XAFS分科会 -

東北大学 科学計測研究所
宇田川 康夫

SPring-8の課題選定のシステムはどうしてもPFのやり方と較べてしまうが、半年毎に課題申請をする、レフリー制をとらないなどの特長と問題点は'98年の第6号 (Vol.3, No.6) に太田主査が書いておられるのでここでは略し、XAFSの課題選定の特徴についてだけふれることにする。

放射光実験のうちではXAFSはやや異質なものであろう。いまやXAFSはそれだけで閉じた実験ではなく、非晶質の構造決定のためのルーチンの一つとして使われるようになってきている。そうした研究ではXRD, IR, UV - VISその他の結果と総合して対象試料の実像に迫ろうとする。したがって「XAFSを測定すること自体の価値」だけではなく、その研究対象の「サイエンスとしての価値」で選択する他はないわけであるが、1頁に満たないスペースにつめこまれている研究の意義、目的、特色、期待される成果、SPring-8を必要とする理由等々を正しく理解して評価を下すのは不可能というものであ

る。したがって選定はかなり主観的なものにならざるを得ない。とはいえ、複数の委員の評価は結構一致するものであった。時間がかかったのはむしろ継続課題をどう扱うか、あるいは技術的に可能かどうかの判断がつきかねる（特にBL01B1以外のビームラインを指定してある場合）などテクニカルな問題が多かった。

まず、継続課題の取扱いであるが、やはり同一課題名で殆ど同じ内容での申請を何度も続けることには問題があろう。勿論半年間での10シフトに満たない実験で結論を出せというのは無理な相談であるのは明らかだが、何回まで認めるか線を引くことも根拠が見つけれない。とりあえず今回の選定では全く同じ内容で3回目という申請には付帯意見をつけることとした。

気の毒だったのは前回申請して認められてはいるものの2回目の申請時にはまだ実験ができていない

という例である。これは半年のことであるから一度測定をしてみてから再申請されたいということにした。当事者にとっては割り切れない思いかもしれないが、限りあるマシンタイムを有効に利用していただくためにはやむを得なかった。

XAFSは極端に云えば分光器が一つあれば測定が可能なので通常の測定でもBL01B1以外のビームラインを指定したものがいくつかあった。また、他のビームラインの特徴を生かした実験でも吸収測定であればXAFSに分類されてくる。どちらの場合でも4名の委員ではビームラインの状況がわからず、その実験が可能か否か、適当か否か判断できない場合が多く、そのビームラインをよく知る人を探し出して意見を聞くという場面が度々生じた。現行のやり方ではビームライン毎ではなく、サイエンスで分類されるのでこうした事態が生じるのは必然である。

そこで、是非当事者にお願いしたいことは、まずビームライン毎に分類し、各ビームライン担当者が技術的に可か否かの意見をつけて選定委員会にまわすというシステムにして頂きたいということである。サイエンスという縦の糸とビームラインという横の糸との両方から判断しなければならないので

んなやり方をしても難しいのは当然であり、試行錯誤を重ねながら最善に近いシステムを構築していくために提案させて頂きたい。

最後に、蛇足として、最近何度か利用したブルックヘブンのNSLSの方式を紹介したい。NSLSでは1年は4ヶ月ずつ3期に分かれ、各期毎に(その3ヶ月以前受付け締切り)課題申請を受付け、認められれば2年間有効、認められた課題はその後各期開始の3ヶ月前までにビームタイムを要求する(勿論要求したら必ず貰えるわけではない。筆者の最初の申請に対する判定は「全部で30日、ただし最初の1期は0日」であった)。この方式だと課題選定は1年に3回となるが、申請数は1/4に減るはず?である。ユーザーにとっても半年毎の課題申請という煩わしさから逃れれると同時に約半年以内に実験ができるかどうかわかる格好のシステムに思えるが、如何なものでしょうか。

宇田川 康夫 UDAGAWA Yasuo
東北大学 科学計測研究所
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
TEL : 022-217-5384 FAX : 022-217-5404
e-mail : udagawa@rism.tohoku.ac.jp

- 分光分科会 -

東京大学大学院 理学系研究科
藤森 淳

一昨年、SPring-8利用課題選定委員会の分光分科会の主査を仰せつかり、最初は慣れずに戸惑うことが多くありましたが、JASRIのスタッフの方々、分科会の方々に助けられ、これまで何とか役目を果たしてきました。共同利用が開始されたばかりにもか

かわらず、応募課題数が400件近く、採択数が250件余りに上っているということは、これから多くの成果がSPring-8から生まれて行くことを意味しています。これだけ多くの数の利用課題を公正に審査・選定し、